

漫画学のススメ

日下, 翠
九州大学比較社会文化研究院文化空間部門・文化表象講座

<https://hdl.handle.net/2324/10743>

出版情報：九大広報. 11, pp.18-18, 2000-03. 九州大学広報委員会
バージョン：
権利関係：



日本人が思っている以上に、日本の漫画は世界で広く受け入れられている。我々が好むと好まざるとにかかわらず、今や漫画は日本を代表する文化の一つになっているのである。特にアジアの各国では、いたるところで日本製のマンガ、アニメ、ゲームが溢れており、旅行者を驚かせている。ところが、肝心の文化の輸出元である日本での研究はまだまだ不十分、どころか、ほとんど無いに等しい。誰か研究してくれないものか…などと同僚たちと話し合っていたところ、いつのまにか、それなら私たちが講義でも始めよう、という話になった。

しかし、研究するにせよ、教えるにせよ、何らかのたたき台が必要である。まずテキストを作ってみよう、というわけを書いたのがこの本である(もっとも、ついつい語り口がくだけすぎてしまったため、テキストと言うよりは参考書のようにってしまったが)。本書は三部に分かれており、それぞれの内容は次のとおり。

第1部: 漫画で読む文化。

少女漫画、少年漫画からそれぞれの文化を読み取る。

第2部: 少女漫画入門。

少女漫画の代表的な作家と作品を紹介。

第3部: 中国語圏(大陸、香港、台湾)の漫画事情を紹介。

興味深いことには、中国大陸では日本生まれのストーリー漫画を「新漫画」、或いは「カートン画」と呼び、新しい文化として認識している。これは逆にいえば、我々自身が日本漫画の特徴にあまりにも無自覚すぎたということなのかもしれない。

ともあれ、これからの漫画の研究にこの本が何らかの役割を果たしてくれることを願っている。さらに、世代を超えて出来るだけ多くの漫画ファンの方々に読んでいただければ、著者としては望外の喜びである。

(白帝社, 2000年1月刊, 305頁)

筆者: 日下 翠(くさか みどり)

大学院比較社会文化研究科助教授

[前のページ](#) [ページTOPへ](#) [次のページ](#)

[インデックスへ](#)